

小山市長 新人浅野氏

大久保氏の6選阻む

6893票差 「多選弊害」訴え

投票率44.72%

任期満了に伴う小山市長選は5日投票が行われ、弁護士で無所属の新人浅野正富氏(63)が、6選を目指した無所属の現職大久保寿夫氏(71)に自民、公明推薦を6893票差で破り、初当選を果たした。5期20年続いた大久保市政は幕を閉じる。投票率は44.72%。市長選として過去最低だった前回(34.89%)を9.83%上回った。

大久保氏の「多選」の是非のない新たな市長に希望を非が最大の争点だった。市民は市政の継続より「市政刷新」を求め、政治経験候補した浅野氏は、政党の支援を得て運動を展開。市民の「反大久保票」を握り起こした。

6選を目指した大久保氏は県議4人と22人の市議の応援を得て盤石の態勢で臨



初当選を確実にし支持者と万歳する浅野正富氏(中央) = 5日午後11時、小山市西城南2丁目の選挙事務所、杉浦崇仁撮影

市政刷新、期待に応えよ

多選の弊害を軸に訴えた浅野正富氏が、大逆転の勝利をつかんだ。立候補表明は告示のわずか1カ月前。政党推薦のない無名の新人が6選を目指す自公推薦の現職大久保寿夫氏を破ったのは、奇跡に等しい。

大久保氏の対人関係のまずさがあった。公衆の面前で部下を激しく叱責する姿も見られ、1期目から支え続けてきた「身内」からも苦言を呈する人が少なからずいた。

綿密な戦術があったわけではない。当初は点と線だけつながっていただけの組織が面的に広がり、選挙運動に初めて関わる市民が多数事務所へ訪れるようになった。「市民の声を聴く」と愚直に訴えた結果だった。

大久保氏はかたくなに否定するが、多選の弊害として浅野氏が厳しく指摘した「独善的な市政運営」や「職員

の過度な付度」は、議員や各種団体幹部の間でも知られていた。その批判を上げる実績が大久保氏を支えていたが、6期目を前についに崩れ落ちた。

新たに市政を担う浅野氏には、市政刷新の期待がかかる。議会運営では少数与党となる。選挙戦のしこり解消も大きな課題となる

当 33,060	浅野 正富 63	無新①
26,167	大久保寿夫 71	無現

(敬称略、丸囲み数字は当選回数)

時ころ、当選確実の報と共に大歓声が湧き起こった。事務所に入ってきた浅野氏と共に、大勢の支持者が万歳三唱を繰り返した。浅野氏は「われわれ市民の勝利です。小山市を生まれ変わらせましょう」と喜びを爆発させた。

一方、城北1丁目の大久保氏の選挙事務所が集まった支持者からは、まさかの落選に「えー」と驚きの声が上がった。大久保氏は「私の不徳の致すところ。皆さんにご迷惑を掛けた」と敗戦の弁を述べた。

【浅野正富氏略歴】弁護士。1992年、法律事務所開設。NPO法人理事。早稲田大卒。小山市乙女1丁目。

選挙戦の隠れた争点に、

ワンストップ (迅速・親切・丁寧)

確認検査サービス

建築確認申請も、長期優良住宅審査も。

地域に寄り添う確認検査・性能評価機関

株式会社 総研 TEL.028-622-9912

(宗像信如)